

[普及事項]

新技術名：ブドウ樹の主幹や主枝の粗皮剥ぎはクビアカスカシバの防除効果をも高める
(平成23～24年)

研究機関名 果樹試験場 特産果樹部
担当者 小松美千代・大隅専一

[要約] ブドウ樹主幹や主枝の粗皮を剥ぐことにより枝幹害虫であるクビアカスカシバに対するフルベンジアミド水和剤4,000倍による防除効果が高まる。

[普及対象範囲]

全県のブドウ生産地域

[ねらい]

本県のブドウ主産地である横手市において、近年クビアカスカシバによる被害が増加しており、防除対策として幼虫の捕殺が実施されているが効果は不十分である。

クビアカスカシバは前年までの被害部や粗皮のくぼみ、粗皮の裏側などに産卵し食入しやすい。そこで、ブドウ樹の主幹や主枝の粗皮剥ぎがクビアカスカシバに対する防除効果を明らかにし、本種に対する効果的な防除法を確立する。

[技術の内容・特徴]

1. クビアカスカシバの雄成虫初誘殺前の5月中旬に(2012年は5月16～18日)ブドウ樹の主幹と主枝の粗皮剥ぎを実施した木は、スピードスプレーヤーによるフルベンジアミド水和剤4,000倍を6月下旬に1回、さらに7月上旬あるいは7月中旬に2回目を散布した調査樹において、粗皮剥ぎを実施しない木より虫糞排出か所数や食入幼虫数は明らかに少ない(表1、2)。

[成果の活用上の留意点]

1. 粗皮剥ぎ作業は5月中旬までに終了させる。
2. 粗皮部分は全て丁寧にはぎ取る。なお、主幹部は地際部から実施する。
3. 既に被害を受けいる部分は徹底して粗皮剥ぎを実施する。

[具体的なデータ等]

表1 粗皮剥ぎとフルベンジアミド水和剤の効果(虫糞排出か所数)

薬剤散布	粗皮削り	主幹		枝	
		有り	無し	有り	無し
有り		1.3±0.3	0.7±0.3	0	3.0±1.5
無し		3.0±0.6	3.7±1.2	5.3±1.5	6.7±4.1

横手市山内の現地ほ場。試験規模は各区5a。各区とも「巨峰」15～16年生(露地栽培、自然形仕立て)6樹を調査樹とし、性フェロモントラップによる雄成虫初誘殺前である5月16～18日に各区調査樹のうち3樹の粗皮剥ぎを実施した。スピードスプレーヤ(ショーシン製、VT1020)の全口噴霧および樹間全列走行により、2012年6月29日および7月11日に、供試薬剤を200L/5aの割合で処理区へ散布した。調査は2012年8月9日に実施した。

表2 粗皮剥ぎとフルベンジアミド水和剤の効果(食入幼虫数)

薬剤散布	粗皮削り	主幹		枝	
		有り	無し	有り	無し
有り		0.7±0.3	0.7±0.3	0	2.7±1.7
無し		1.7±0.3	1.3±1.3	4.7±0.9	8.3±4.2

試験及び調査条件は表1に同じ。

[発表論文等]

植物防疫67(2013) : 232-236

北日本病虫研報64(2013) : 218-221